

- 今年の1月6日に鳥根県東部を震源とする地震があり、鳥取県西部でも大きな被害が出ました。また、10年前（平成28年）には中部で、26年前（平成12年）は西部で、83年前には東部で大きな地震が発生し大変な被害が出ました。
- また、近年は豪雨による川の増水・氾濫が頻発するなど、地震や水害などの災害はいつ身近なところで起こるか分かりません。
- 災害から身を守り、安全に暮らしていくため、防災には「自助・共助・公助」という3つの考え方があります。

★自助:自分や家族でそなえること ★共助:近くの人や地域の人と助け合うこと ★公助:市役所や県などの取り組みを使うこと

万が一の災害の時は、どれも大事な行動ですが、皆さんは、どの考え方をより深く学び、みんなで実践するとよいと思いますか。

次の①～③の候補の中から選んで投票してください。

※なお、皆さんが投票で選んだ結果は、ぼうさいこくたいのイベント内容や今後の防災事業の参考にします。

①自助(自分や家族で備える)

- 家でできる備えをしっかりとる。
 - ・水や食べ物を3日以上準備する。
 - ・懐中電灯やモバイルバッテリーなどを用意する。
 - ・家族で避難場所や連絡方法を決めておく。

👉ポイント

自分と家族の安全を自分たちで守る力を高められる。

👉迷うところ

自分の家だけ準備しても、地域全体が困る可能性がある。

【県の取組】

- 県政だより等広報誌による災害対策等の情報発信
- 防災イベントでの訓練体験
- 起震車による地震体験
- 学校での防災教育
- 住宅の安全対策の後押し
 - ・感震ブレーカー
 - ・火災報知器 等の支援

②共助(地域で助け合う力を高める)

- 地域の人とつながりをつくる。
 - ・近所の人とあいさつや会話をする。
 - ・高齢の方や困っている人がどこにいるか知る。
 - ・地域の防災訓練に参加する。

👉ポイント

災害時は「近くの人」が頼りになる。

👉迷うところ

普段は効果が見えにくく、すぐに役に立つ実感が少ない。

【県の取組】

- 消防団、自主防災組織や防災士の育成・活動支援
- 「支え愛」マップ作成支援
- 避難所運営ゲーム(HUG)の制作支援・自治会等への貸出
- 災害中間支援組織の支援
- 地域に関わる外部の人(関係人口)を増やす取組

③公助(社会の仕組みを活用する)

- 地域や行政の情報をしっかりと知る。
 - ・ハザードマップを確認する。
 - ・避難所の場所やルールを知る。
 - ・防災アプリや情報サービスを活用する。

👉ポイント

正しい情報を知ること、適切な行動がとれる。

👉迷うところ

知っているだけでは、実際の行動にはつながらない。

【県の取組】

- 鳥取県防災アプリ「あんしんトリピーなび」や「災害記録伝承ポータル」での情報発信
- 災害ケースマネジメントや住宅再建補助など被災者に寄り添った復旧支援
- 避難所で必要となる物資を市町村と連携して備蓄